防災まちづくりの会だより

防災まちづくりの会は、各町会の役員がオウム対策におわれたため10～11月は活動することができず、ニュースも発行することができませんでした。12月14日に第39回防災まちづくりの会が3ヶ月ぶりに開催されました。

今年度の工事

防災まちづくりとして行われる今年度の工事予定は次のとおりです。

●貯水槽の設置……今年度の貯水槽は、池袋中の西の区道と学校敷地にまたがってに設置されます。この区道は池袋中の敷地に接する行き止まりになっている部分で、区の特別の計らいで設置が許可されました。このあたりは貯水槽が不足している地区なので、水利の配置上大変に効果的な場所となります。

●紀伊国湯の深井戸……旧紀伊国湯で使われていた150mの深井戸を再利用できるように整備します。災害時でも使えるようにポンプと蓄電池を設置します。飲料に適するかどうかを現在調査中です。

●文成小井戸広場……文成小の井戸広場の敷地では、埋蔵文化財の調査が行われました。これまであった焼却炉を撤去しての調査となりました。敷地からは特別な遺跡は現れなかったため、来年度、工事が行われる予定です。

道路部会の調査

道路部会では、地区内の防災上重要な道路について、電柱や標識の移設、すみきりなどの整備を求めていくため、現況調査を行っています。

今回調査を行ったのは池二小の東側の道。その結果、2ヶ所の電柱の移設が必要なところが見つかりました。この調査をさらに進めて、来年度の事業で整備をするように求めていくことにしました。

投稿

火事だ！火事だ！

普段の防災訓練がいかに役立つか

火事はいつ発生するか判りません。11月27日午後11時頃、池袋本町二丁目22のマンションの、ゴミ置き場内の台上に落ち葉等を集めて火をつけ、その火が屋根まで届き一部を焼いた不審火が発生しました。

火をつけた犯人は判りませんが、近所の人達が早期に発見し、火事だ！火事だ！と大声で叫び、その声を聞いた近隣の人達が素早く三角バケツ、消火器、バケツなどを持ち出し、一致協力しながら火を消し止めました。大事に至らなかったことが、不幸中の幸いに思います。

三角バケツや消火器、バケツで消火に努めた人達は、いずれも普段、防災訓練に熱心な人達でした。我が街は自分たちで守るという意気込みこそ、平素における防災訓練の賜です。消火に協力してくださった皆様、火の用心の夜警巡回をしてくれた方々に衷心よりお礼申し上げます。

この火災により、豊島区防災課と池袋消防署のご指導による防災訓練や、豊島区街づくり公社のご指導による防災まちづくりの行事などの実施が、如何に大切であるかを改めて痛感した次第です。これからも、我が街は自分たちで守るという言葉を盾に、一致団結し協力していきたいと思います。

最後になりますが、火事の通報によりいち早く消火に努めてくれました池袋消防署の皆さん、火事の原因を調査してくださいました池袋警察署の皆さんに謝んでお礼申し上げます。

池袋本町二丁目町会　会長　小島建之　　防災部役員一同

町会訪問④ 池袋本町中央町会　大沢会長を訪ねて

若い人が参加しやすい環境づくり

現在の池袋本町中央町会（約700世帯、会員350名）の名称は、戦前、戦後と合併・統合などの歴史を重ねて、1991年に池袋本町一・二丁目中央町会が改称されたものです。

会長の大沢登美治さんは、1928年（昭和3年）現在の上池袋（当時西巣鴨）生まれ。1949年に池袋本町に移り住み、後に、現在後継ぎのご長男とともに営む青果業「やおとも」を興し、その傍ら1988年会長に就任されました。今年で6期、11年めです。

活動は、他の町会と同様幅広く、防災にも力を入れていますが、ここでの特徴は、町会の催しに若い人たちが参加しやすい環境を作っていることです。最近は若いお母さんたちに声をかけて、簡単な仕事でも少しずつやってもらい、町会に対する理解を深めてもらうようにしているということです。その輪のひろげ方は、一つの行事が終わったらすぐに報告をかねて次の行事のお誘いをやるというのがコツだと会長さんはおっしゃいます。2～3年前から小中学校の防災訓練を地域に密着した形でやるようになったことも、町会との関係につなげる役割を果たしているようです。こうなったのは、最近起きている社会的な問題などはよそでの出来事（対岸の火事）と思っていたことが、実際に自分たちの身近で起きても不思議ではないことなんだ、住民全体が日常的に関係づくりをしていないといけない、対応し合わなければならないことだと気づいたからだそうです。そうした関係は、良い意味での「下町的」コミュニティのような印象を受けました。これなら「隣のオジイちゃん、オバアちゃん、おじサン、おばサン、お兄サン、お姉サン」が何時も見てくれているという安心感のなかで、若いお母さんの育児ノイローゼや、子どもたちのいじめや不登校も少なくなるかもしれないと思うような、「フンワリ、のびのびした街」というイメージが広がってきました。（取材；渡辺　青山）

サバイバル・ワンポイント講座 その2

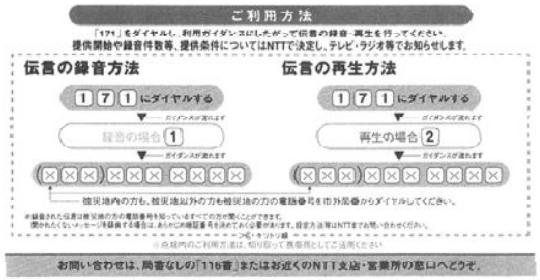
情報をつくる

地震は何時起きるかわかりません。阪神・淡路大震災は、早朝、家族がそろっている時間に発生しました。でも、もしも昼間に地震が発生した場合、みなさんの家族はどこにいるでしょうか？

今回は、大地震の時、家族が離れ離れになった場合でも連絡の取り合える「災害用伝言ダイヤル」を紹介します。大地震の時は電話が使えなくなったり、被災地への電話が集中して電話がかかりにくくなる場合があります。そんな時のために「災害用伝言ダイヤル」が設けられました。これは被災地域内やその他の地域の方々との「声の伝言板です」。それでは使い方をお話します。

まず１７１を覚えておいてください。次に録音の場合は１・再生の場合は２を押して、市外局番から自分の電話番号をダイヤルすればいいのです。

この「災害用伝言ダイヤル」は、自分の安全や避難先を録音したり、家族の安否を確認できます。被災地外の人（災害発生当初は、被災地外の方は再生のみとなり、録音はできません）も利用できますので、親戚などにも情報を伝える事が出来ます。（図参照。詳しくは、もよりのＮＴＴにお問合せ下さい）

地震のとき、家族や親戚の安否がいちばん気になりますよね。これを機会に、家族で防災会議を開いてはいかがですか？

（防災ネットワークプラン／井上浩一）